

土管第210号
平成25年3月29日

土木部各課長
各出先機関の長様

土木管理課長

土留め壁の根入れ長の決定について

仮設工の土留め工法を設計する際には、「道路土工—仮設構造物工指針」、「土木工事 仮設計画ガイドブック（Ⅰ）、（Ⅱ）」等、最新の指針や基準書等を使用することとし、以下については、福井県土木部として統一の考え方を示したので通知します。

記

1 土留め壁の根入れ長の決定

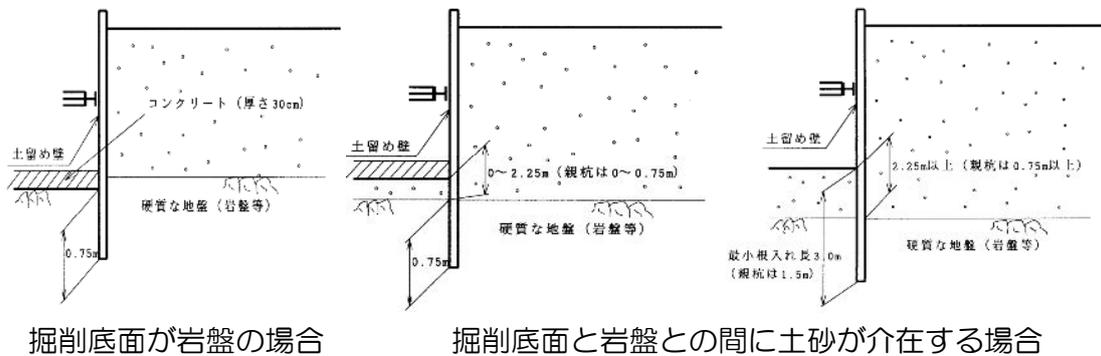
非常に硬質な地盤（岩盤等）に根入れする場合も、極力最小根入れ長を確保すること。ただし、最小根入れ長を確保することが困難な場合は最小根入れ長より短くしてもよい（最低でも0.75mは硬質地盤に貫入すること）。

(担当)
土木管理課 技術管理G
内線 3312

【解説】

最小根入れ長の短縮

非常に硬質な地盤（岩盤等）は、受働抵抗力の算定に用いる粘着力 c が大きく、根入れ部の安定検討を行うと極端に少ない根入れとなる（D級岩盤の切梁式親杭横矢板で 40 cm程度）。しかし、このような硬質地盤の場合、受働側地盤の破壊がぜい性的に起きる危険性があり、十分な受働抵抗の評価が難しいことから、最低でも 0.75mは硬質地盤に貫入することとする（図参照）。



【図 硬質地盤の最低貫入量】